



# 人権の窓

## 「全国水平社」創立100周年を迎えて 〜智頭町の水平社のおこり〜

大正11（1922）年3月3日、京都市岡崎公会堂を会場に「全国水平社創立大会」が開かれ、本年度100周年を迎えました。創立大会には「被差別部落の地位向上と人間の尊厳の確立」を目指す2000人を超える人々が集まりましたが、その中には智頭町から参加した26才の松本兼松さん（1895-1977）の姿もありました。



日本初の人権宣言とも位置付けられる「水平社宣言」は、「全国に散在する吾が特殊部落よ団結せよ」ではじまり、「水平社はかくして生まれた。人の世に熱あれ、人間に光あれ」という言葉で結ばれます。「人間を尊敬し、大切にしよう」とで差別はなくしていい」という願いが込められた水平社宣言を、松本さんはどのような思いで聞いたのでしょうか。

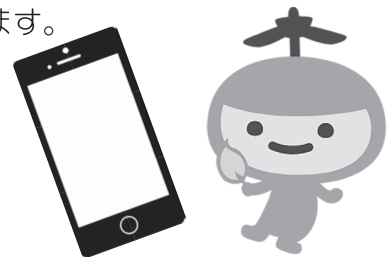
帰郷した松本さんは、翌年の7月12日の夜、全国水平社の南海吉委員長と田中三郎中央委員を講師として智頭に招き、興雲寺（上町）を会場に「水平社演説会」を開催しました。これが事実上の「水平社智頭支部結成大会」とされています。

智頭町で同和対策・同和教育に取り組んで50年を迎えました。改めて人権尊重社会の意義を考えながら、町の人権確立及び啓発に取り組んでいきます。

### 智頭町はインターネットモニタリングを実施しています

本町では、平成28年12月に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」を踏まえ、情報化の進展に伴って深刻化しているインターネット上の掲示板などへの悪質な部落差別に関する書き込み等の早期発見や拡散防止、監視による抑制効果などを目的に、昨年度から複数職員でのモニタリングを実施しています。

また、新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、感染者や関係者に対する差別書き込みもあわせて監視しており、差別の書き込みを発見した場合にはプロバイダーなどへ即刻削除要請を行い、差別の助長を抑制して差別が拡散しない社会づくりに取り組んでいきます。



問合せ先 役場総務課 ☎75-4111